

35 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(6) 家康と船橋(6)

—船橋大神宮と常磐神社—

29期 仲田 元昭

今回は「家康と船橋」シリーズで家康と最も関係の深い、船橋大神宮と幕府が定めた7大東照宮の一つ常磐神社を家康公に絞ってご案内します。

「船橋大神宮」

船橋大神宮は、今から1900年ほど前に創建されたと伝えられ、平安時代(927年)に編纂された「延喜式」神名帳に記載のある船橋市を代表する由緒ある神社です。天正19年(1591)徳川家康より「常磐の箱」に開運の旗と陣弓を本殿に納めたと言われ、また50石の社領を賜りました。

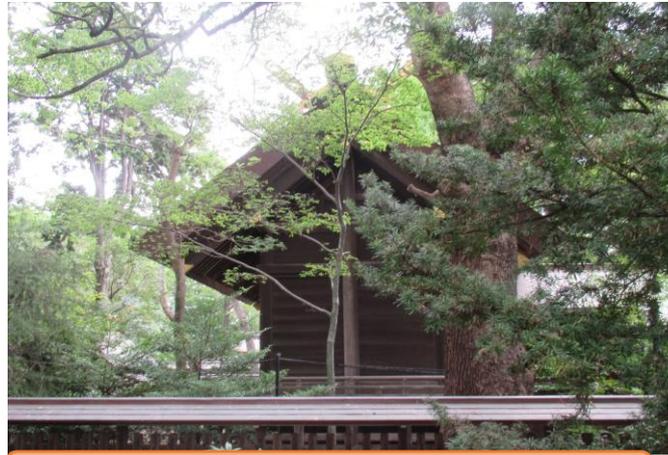
社殿は、410年程前に家康により造営され、家康は関ヶ原の戦いや大坂夏の陣等に4回戦勝祈願と戦勝報告の為に参拝したと伝えられており、家康と関係の深い神社です。

「常磐神社」

常磐神社は、元和8年(1622)二代将軍秀忠が家康を祀るため造営したとされています。

八代将軍吉宗の時代、参勤交代で来た大名に、日光東照宮まで行くことない、船橋常磐神社でお参りを済ませること認める。官により造られる東照宮は、7か所なり、「日光山、久能山、上野、紅葉山(江戸城西の丸)、仙波(川越喜多院)、世良田(群馬県世良田東照宮)、船橋(常磐神社)是なり」とお話になり大名の参拝も多かったようです。(平戸藩主松浦静山の甲子夜話巻31による)

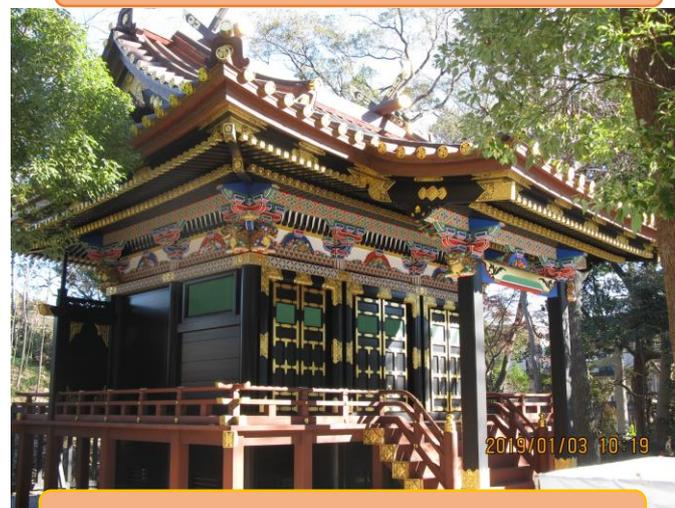
平成27年に家康公400年祭を記念し新築なった本殿は、正月のみ公開です。ご興味のある方は是非素晴らしい本殿と彫刻美を、見学されてはいかがでしょうか。「36 我が街 船橋を歩く 家康と船橋(7)」に続く「2023-11-1 寄稿」



古木に囲まれた船橋大神宮 神明造の本殿



葵の紋と菊の御紋がある常磐神社唐門



正月3日間のみ公開する常磐神社本殿